

会 議 録

会議の名称	令和3年度第3回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和3年7月18日(日) 午前10時00分 開会 ・午後0時25分 閉会
開催場所	川越市役所7階 第5委員会室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：14名 平野委員、鈴木委員、川口委員、片野委員、高倉委員、 小寺委員、大木委員、山田委員、山本委員、岡野委員、 伊藤委員、崎委員、三谷委員、圓岡委員 欠席：6名 宮島委員、岡田委員、浅見委員、石川委員、田村委員、 長峰委員
関係者	まーぶるしんがし園 代表 山岸祐子 公立保育所利用保護者、民間保育園利用保護者 幼稚園利用保護者、地域型保育事業所利用保護者
傍聴人	14人
事務局職員職名	こども未来部部長、 こども未来部副部長(保育課長)、保育課副課長 こども育成課課長、こども育成課副課長、 こども家庭課課長、こども家庭課主幹、 療育支援課課長、健康づくり支援課課長、 こども政策課課長、こども政策課副課長、 こども政策課副主幹(2名)、こども政策課主査(2名)、 こども政策課主任(2名)、こども政策課主事(1名)
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 報告事項 (1) 待機児童数について 4 議題 (1) 川越市公立保育所のあり方(案)について (2) その他 5 その他 6 閉会

配布資料	<p>(別添のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・川越市保育所等の待機児童の状況について (資料 1) ・令和 3 年度第 2 回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 会議シートでの質問及びご意見 (資料 2-1) ・ホームページで寄せられた市民の声 (資料 2-2) ・「公立保育所のあり方」に関するアンケート調査結果 (資料 2-3) ・「公立保育所のあり方」に関するアンケート調査結果(追加実 施分) (資料 2-4) ・第 2 回ワーキングチーム会議の実施報告について (ワーキングチーム提出資料)
会議要旨	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童数について 令和 3 年 4 月 1 日現在の待機児童数について事務局から報告した。質疑応答なし。 <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市公立保育所のあり方(案)について 地域型保育事業所の代表、公立保育所、民間保育所、幼稚園、地域型保育事業所の利用保護者に対してヒアリングを実施した。また、アンケート調査結果、会議シートでの意見、ワーキングチームの活動報告を踏まえ、討論が行われた。 会長から今後の進め方について提案があった。審議会としての意見を市に対して伝え市の検討に反映するため、次回 8 月の審議会ですこれまでの議論について取りまとめ、市に検討報告を行うこととして了解された。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 新委員として市議会から選出された片野委員から挨拶があった。</p> <p>3 報告事項 [報告事項(1)] 待機児童数について 資料1に基づき、事務局から報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月1日現在の待機児童数は7人。昨年度から5人の増加となっている。 ・年齢別でみると、1歳児が3人、2歳児が2人、3歳児が2人となっている。 ・待機児童数の推移については、平成27年度から平成30年度までは70人前後で推移していたが、令和元年度は20人、令和2年度は2人、令和3年度は7人となっている。 ・待機児童数が減少した要因としては、保育所の整備が進んだこと、利用申込者数が例年増加していたが、その増加幅が小さくなっていることが挙げられる。 ・埼玉県内の待機児童数の状況については、令和3年4月1日現在で388人で、昨年度の1,083人から695人減となっている。 ・最も減少数が多いのはさいたま市で、昨年度の387人から376人減少し、今年度の待機児童数は11人となっている。 ・そのほか待機児童数の多い県内市町村としては、朝霞市が43人、和光市が39人、川口市・富士見市が30人、新座市が29人となっている。川越市は県内で17番目となっている。 <p>○質疑応答 なし</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>4 議 題</p> <p>※本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p> <p>[議題(1)] 川越市公立保育所のあり方(案)について</p> <p>◎地域型保育事業所の関係者にヒアリングを実施した。 (発言時間10分、意見交換5分)</p> <p>◎公立保育所・民間保育所・幼稚園・地域型保育事業所をそれぞれ利用されている保護者の方にヒアリングを実施した。 (発言時間各5分、意見交換10分)</p> <p>◎事務局より資料2-1, 2-2, 2-3に基づき説明を行った。</p> <p>◎ワーキングチームから活動内容及びアンケート調査の追加実施について報告があり、アンケート調査の結果について事務局から説明を行った。</p> <p>◎今後の進め方について会長から提案があり、以後提案どおり進めることとして了解された。</p> <p>内容は下記のとおり。</p> <p>【ヒアリング概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の声を反映するため、第2回分科会に引き続きヒアリングを実施する。今回は地域型保育事業所の関係者の方と公立保育所、民間保育所、幼稚園、地域型保育事業所をそれぞれ利用する保護者の方4名にお越しいただいた。 ・地域型保育事業所の関係者の方には10分程度でお話ししていただき、5分程度で皆様から質問をいただきたい。 ・保護者の方にはそれぞれ5分程度でお話ししていただき、10分程度で皆様から質問をいただきたい。 <p>【関係者ヒアリング】</p> <p>■施設区分：地域型保育事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県内で小規模保育園5園と認可保育園3園の合計8園を運営している。 ・小規模保育園では、0～2歳までのお子さんを最大で19名までお
まーぶるしんがし園 代表	

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>預かりし、保育を行っている。</p> <p>(小規模保育園について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年前から川越市の小規模保育園を運営している先生方10名が集まり、川越市の小規模保育園での問題点、その解決のための方法、職員の質の向上のための研修会、労務問題や職員の採用問題などあらゆる視点から議論をしたり情報交換をしている。一昨年では小規模保育連絡会加盟園全園で子どもたちの命を守るため、AEDを導入し、その使用方法などの講習会を実施した。労務問題に詳しい社会保険労務士を招いて勉強したり、元公立保育園の園長などに職員のモチベーションをあげるための方法などを指導していただいたりと多岐にわたって活動している。さらに、小規模保育をよくするうえでの要望書を市長にお渡しし会談も行っている。 ・ 小規模保育園では家庭的な合同での保育がメインとなり、兄弟のように2歳児が1歳児や0歳児の面倒をみたり、小さな子が大きな子を真似して覚えたりと、家にいるような形で子どもたちが育っている。 ・ 一人っ子も多い昨今では、とても良い環境でゆったりと保育ができるのが良い点である。 ・ もちろん集団でのルールも覚えながら、先生はお母さんのように、今ではお母さん以上でしょうか。全てを受け入れ、養護・教育の保育を展開している。 ・ そのような特徴からあえて小規模保育園が良いと入園を希望される方も増えている。 ・ また、小規模保育園を運営しているのは、ほとんどが株式会社、社団法人、NPO法人などになる。株式会社などでは他県をまたいでフランチャイズなどで経営されている園もあるが、法人税を払うことになるので、一般の会社と同じように節税などに努めなければならない。1園のみを経営されている先生もいる。 ・ 今後園児が減ってきて、暖かみのある小規模保育園を生かす形での保育行政をお願いしたい。 <p>(公立保育園について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今は公立保育園、私立認可保育園、小規模保育園、幼稚園、認定こども園とたくさん子ども達が保育される施設がある。 ・ 民間保育園は個性を出し、公立との差を出すためにいろんな特徴をもって保育活動をしている。 ・ 公立園では、長く勤められている先生が多いため、多彩な保育技術

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>を持っていたり、障害児などを専門で見られる先生がいたりなど、民間保育園にはない経験値を持っている先生が多いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立園が縮小するのは、とてももったいないことだと思う。 ・ しかし、第1回分科会で配布された資料 2-5 を見ると分かるが、運営費をみると、公立保育園では 100%市の負担となり、民間保育園だと市の負担割合が低く抑えられていることを知った。そのため、他市では民間委託に移行しているのだと把握できた。川越市でも縮小せざるを得ないと理解できる。 ・ しかしながら、全部閉鎖では民間で支援をする障害児保育や医療的ケア児などの保育は、保育技術が未熟なためにとてもできない状況である。 ・ 第1回分科会資料 2-9、各地区に公立保育園を残し、基幹となる保育園づくりをしてほしいと考える。ちょうど病院とクリニックの関係に似ているように、基幹園は保育指導をできる先生を置き、民間保育園の指導にあたり、自らの公立園がモデル園となるように保育が行われることを望む。 ・ 地域で連携しあい、非常時の時などには基幹園で保育を行ったり、研修をしたりと、官民両方で質を高めていくように主導してほしい。 ・ 良い保育士が育つと、子ども達に還り、川越市の子ども達がよく育ち、いずれは川越市に還元してくれる大人へと育ってくれると思っている。 ・ 子ども達の人数が減ってきたときに、小規模が0～2歳の子を保育し、公立園で3～5歳の子を保育するなど、弾力化をしていただけるとありがたい。 ・ 民間は、園が閉鎖になると、職員や経営者、双方の生活がかかってかなり困る。 ・ 公立園では、園が閉鎖になっても職員は支援センターや児童館、市役所などに異動して働くことができる。 <p>(保育士の採用について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質のよい保育をするには良い先生が必要になる。それも多数必要になる。保育士は女性が多いために、新卒採用しても、結婚、妊娠などどうしても一時期仕事ができない時期がある。そのため良い先生でも産休・育休に入るので、必ず毎年採用活動を行うことになる。採用方法はハローワークでの募集や派遣、紹介派遣、就職採用フェアに参加、インターネット広告をあげての採用活動になる。川越市

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>内の保育士はもちろん、近隣の保育士はどうしても他市へ流れて行ってしまふ。なぜか。さいたま市では処遇改善費という名目で、年間19万3,500円ほどの手当が全職員に出る。また、厚生労働省で打ち出している家賃補助はふじみ野市、上尾市、さいたま市などの近隣市では当たり前にある。一人暮らしを希望する保育士は川越市には来ない。良い人材でも全部他市へ流出しているのが現状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは小規模保育園だけのことなのかと不思議であったが、先日会った幼稚園の先生曰く、幼稚園でも人材が足りないとのことであった。 ・では、公立園は不足していないのか。第1回分科会の資料2-4の「3 保育士の状況」を見ていただきたい。常勤と非常勤保育士がほぼ同数の園や非常勤保育士の方が多い園もある。公立園でも決して人材が潤沢にいるようには思えない数字が並んでいる。つまり川越市には保育士の人材が入ってきていない状況を確認できる。これは大きな問題である。川越市ではすぐに保育士を確保する対策をうってほしい。ちなみにさいたま市では、役所主導で、地方からの学生をバスに乗せツアーで保育園見学をして、採用につなげるという方法もとっている。優秀な人材が全て他市に行ってしまうことを一番恐れている。川越市に良い人材が集まるように、保育士採用の件、ぜひ切にお願いしたい。 <p>○質疑応答</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育園を運営する中で、公立保育所との連携というのは現在までにあるのか。川越市から協力の呼びかけといったものはあるのか。
まーぶるしんがし園 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市内では全くない。さいたま市内では、区ごとに集まる会議のようなものがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは必要だと感じるか。
まーぶるしんがし園 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん必要だと感じる。今子どもが少なくなっている時代で、公立だから、民間だから、小規模だから、認可だからと言っている場合ではなく、みんなで連携して、地域で、地区ごとに保育園の雰囲気も保護者の質とか層とかも違ってくるので、地域でまとまった方

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>が保育園は運営しやすいのではないかと。公立園だから、民間園だからではなく同じ子どもなので、同じように育ててほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほど公立保育所の基幹園からの指導といった言葉をお使いになりましたが、どういうイメージか。広い意味で協力関係というのは必要かもしれないが、指導されるのは、せつかく独立して園を運営されているのに、かえって抵抗があるのではないかと。
まーぶるしんがし園 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容についてはそれぞれオリジナリティがあると思うが、例えば、今多くなっている「気になる子」、それから療育が必要になってくる子どもの保育の仕方というのは、今の若い先生はなかなかそこまで技術が無く、現場では相当困っている。配置基準が決まっているが、その人数では決して保育は回せない。やはりそうした子に手がかかるので、さらに保育士を投入するということが増えている。それでもなおかつ技術的に未熟なので、研修をしたり、そうした技術を持つ公立園の先生からアドバイスがあるとありがたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公立園との連携とのことで、公立園は様々研修があるかと思うが、そうしたところに参加するであるとか、家の近くの小規模保育園は1階で保育をしているが、乳幼児を扱う小規模園なので、地震・水害といった災害時などに近くの公共施設や2階・3階建ての保育園に避難したりするなど、連携ができると安心できると思う。例えば両親が都内にお勤めで、翌朝お迎えになってしまうといった時も安心ではないか、そういった連携が本当に求められているのではないかと。 ・どういったイメージの連携があるとよいのか具体的にお伺いしたい。
まーぶるしんがし園 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・以前にも、計画運休だとか大雨で保育が困難な日があったが、各園対応だと先生たちも間に合わなかったりということがある。そういった非常時に関しても看護師、消防士、警察官のお子さんは預けに来るわけだが、園では先生が集まらない。こういった時に公立園にみんなが集まって保育ができる、というようなイメージでいる。現実には川口市で実施されたことがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先生をお母さんのように、ひよっとしたらお母さん以上であると発

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
まーぶるしんが し園 代表	<p>言があったが、どういったところからそのように感じたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんお母さんは仕事してらっしゃる方が多いので、どうしても仕事に行かなければいけない。子どもを預けなければいけない。でも子どもは保育園に来ると、体調が悪かったりぐずったりすることもある。本来ならばこれぐらいぐずっていたらお父さんお母さんのところで過ごした方がいいと思うところもあるが、それが許されない場合もある。どうしても仕事に行かなくてはいけない。そういった時には親のように子どもを保育するといったことが多々あるため、そうした意味で親以上という言葉を使った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば幼稚園では就学に向けてなので、普通学級なのか、特別支援が必要なのかというところで、いろいろと就学に向けて様々な折衝がある。おそらく小規模保育園の場合だと、そこから幼稚園や認定こども園や、働き方によっては幼稚園の預かり保育でも大丈夫だとか、選択肢がそこでできると思うが、そこでなかなか決まらない方も出てくる。他市町村ではそうした連携はどうしているのか。0～2歳児は小規模保育園、3～5歳児は幼稚園といった流れがあると良いと思っていたので、そのあたりのことを伺いたい。
まーぶるしんが し園 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・働く親の時間によると思う。例えばパートで働いている方は、4時までの勤務だと幼稚園でも全然問題なく行ける。ただし、夏休みがあるからやっぱり保育園がいいという方もいる。当園でも、2歳で卒園したときに保育園を希望していたが入れず幼稚園に行って、仕事の勤務形態を変えざるを得なかった方もいた。 ・川越市に申し入れをして、2歳から3歳に上がる際に加点してもらえるようになった。 ・私たちは3歳児難民と言っているのだが、そうした3歳児難民が出なくなったことはとても大きなことだと感じている。他市の例で、朝霞市の場合は、2歳まで小規模保育園に入っている子はそのまま認可保育園に必ず入れるような流れになっており、3歳児難民が出ないようなシステムになっている。加点が大きい方が優先的に入園できるようなシステムになっているとの話を聞いた。さいたま市では、連携園を必ず作ることになっている。その連携園に入るか入らないかは保護者のニーズによるところだが、優先的に9月末で連携園に入る方は決定するという形をとっている。川越市もそのあたり

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
公立保育所保護者	<p>は弾力的によくやってくれている。</p> <p>【保護者ヒアリング】</p> <p>■施設区分：公立保育所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長男と次男は、10年以上前に同じ公立保育所を卒園した。歳が離れて三男は別の公立保育所に現在通っている。次男は困難なく成長したが、長男は在園中に自閉症と診断された。子育ての苦労の連続で、今現在も目が離せない状況が続いている。 ・当時、長男に関して、少し落ち着かない程度、他の子より言葉が遅いけど、同じ年代のお子さんとの違いに気づきながらも、なかなか現実を受け入れられなかった私は、長男を2歳から幼稚園に通わせた。ところが、担任の先生から、友達とのトラブルや、人一倍手がかかると困惑した様子で毎日のように連絡があった。秋頃に、幼稚園の園長先生から進級について話があり、遠回しに退園を迫られた。 ・乳飲み子だった次男を抱えながら、私は途方に暮れていた。そんなとき、保育士であった友人が手を差し伸べてくれた。「公立保育所のつどいの広場に行ってみよう。そこの園長先生がとても頼りになる。一度出かけてみよう。」と声をかけてくれた。 ・園長先生は、あまりにしんどそうな顔をしていた私に「市役所にも、子育ての悩みを電話で相談できる窓口があるから、一度かけてみたらどうか。」と教えてくださり、思いきって電話をした。電話口の優しい声に癒やされたのも一度や二度ではない。 ・その後たくさんアドバイスをいただきながら、長男は無事公立保育所への入園が決まった。このような出来事があって、公立保育所に通うきっかけになった。 ・その長男も19歳の誕生日を迎えようとしている。 ・そして、今公立保育所の年中に通う三男も成長がやや緩やかである。生後7か月のときに民間の小規模保育事業所に預けた。民間の保育所では、ほかのお子さんよりも少し手がかかり、何となく申し訳ないと思いながら通わせていた。今思えば、肩身の狭い思いをするくらいだったら、思い切って公立保育所に転園することも一つの方法だったと頭をよぎることがある。 ・三男は、小規模保育所を卒園後、長男の経験から公立保育所に通うと決めていた。なぜなら、担任の先生に子育ての悩みを気兼ねなく打ち明けられて、それを受け止めてくれるベテランの存在の先生が

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
民間保育所保護者	<p>揃っていて、層が厚いと思ったからである。なにより、長男や次男が在園中にお世話になった先生方と再会できて、子どもの成長と一緒に喜んでくれる。これは親にとってはとても喜ばしいことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、今後少子化が見込まれる中、老朽化した園舎を建て替えることはせずに、それらの場所を有効活用していただいて、拠点に公立保育所があれば、それでも十分だと思っている。 ・ 様々な状況の子どもや、問題を抱えた家庭の方が、多少通いにくくなったとしても、遠慮なしに子どもを預けられる場所が存在していれば良いと思っている。 ・ 保育を必要としたときに、すぐ対応してもらえるような受け皿としての公立保育所であってほしいと願っている。 ・ 私は、大切な我が子を預ける場所だから、子どもが心地よく生活できる場所として、公立保育所を選んだ。 ・ 公立保育所は、幼少期の子どもにとっても、保護者にとっても、とても大事な場所である。時代の流れに合った保育所の存在は大切にいただき、新たに活用できる場所は残して、保育所のあり方についてみんなで意見を出し合い、たくさんの選択肢の中から選び抜き、数年後、これが正解だったのだと安堵できるような結果を残していただきたいと願っている。 <p>■施設区分：民間保育所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間保育所の5歳児クラスに子どもを預けている。子どもは3人おり、中学校3年生と中学校1年生と5歳児である。 ・ 以前は坂戸市に住んでおり、10年前に川越に引っ越してきた。そのときにちょうど現在通園している保育所ができたので、3人の子どもともその保育所にお世話になった。 ・ 坂戸市、川越市で2回保育所選びをしており、特に民間保育所と公立保育所を区別して選んだ訳ではないが、選んだのはいずれも民間保育所となった。民間であることを意図して選んだ訳ではないので、若干趣旨から外れてしまうかもしれないが、保育所を選んだ基準を述べさせていただく。 ・ まず一つは、基本であるが、信頼して預けられることが一番大事だと思っている。坂戸市のときに、3.11の大地震があった。早く迎えに行くべきだと思ったが、なかなか帰れずに迎えが遅れてしまった。そんなときに、「あの保育園で大丈夫かな」とは一切思わずに、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
幼稚園保護者	<p>「あの保育園なら子どもが落ち着けて、通常通り良い保育をしているだろう」という安心感がすごくあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのため、この経験から、川越でも安心して預けられることを重要視して保育所を選びたいと考えた。 ・現在の園では、おばが保育園実習をしたり、義理の弟が同じ法人の保育園の卒園生であり、その時保育士をされていた方が園長をされていたりなど、結婚したときから一番よく聞いて知っている、安心感のある保育所だったので、その園を選んだ。 ・二つ目は、環境と接し方、そして給食がおいしいことというような、子どもを見てくれる中で基本的なところを選ぶ基準にしている。 ・環境については、園庭や保育のスペースが確保されていて、楽しそうに遊んでいること。駅近とか都会的だったりとか、先進的だったりというよりは、自然豊かなところがよい。 ・接し方については、坂戸市のときは初めてということで複数の施設に見学に行ったので、子どもを見守る様子を見て「ここだったら預けられるな。」というところをよく見た。現在の保育所はよく知っていたのでそういったところを大事にした。 ・最後に、公立保育所の今後についての話を行う場ではあるが、今後の保育園の希望を伝えさせていただく。 ・民間保育所は、運営費が公立と比較して市の負担が少ないというのを資料で見たが、さらに先の話として、民間保育所の予算をさらに削減しても運営できるのではとか、そのような方向にはいかないようお願いしたい。 ・保育士の先生とか保育の質に関わることなので、予算は限られていると思うが、量を減らして質も下げるといようなことのないようお願いしたい。 <p>■施設区分：幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在通っている幼稚園を選んだ理由は4つある。 ・一つ目は、園庭が広く、外遊びの時間をしっかりと確保していることである。さらに雨の日は体育館遊びや、敷地が広いので雨散歩ができるというところ。幼児期は外遊びによって自己肯定感が育まれるという話を脳科学の先生から聞いたことがあり、私自身、広い園庭で自由に遊んで、発散できる時間が息子にとって必要だと思っていた。 ・二つ目はメリハリのある園生活であるところである。小学生になっ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
※アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤	<p>て、初めから一日中座って授業を受けるのは無理だと思っており、そのために年齢に応じて、徐々に集団行動を教育として取り入れている私立幼稚園に惹かれた。クラス編成があり、一クラスの人数が年齢に応じて20人から30人弱と、目の届く環境であることは、小学校の準備段階としてとても理想的だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つ目は、仕事をしている私にとっては、延長保育があるということである。私立幼稚園は預かってくれる時間が短く費用が高いという印象があったが、通っている園では午前8時から午後6時までで対応していただいております、市からの補助が出るため経済的にもそこまで負担なく延長保育を利用しながら、仕事を続けられている。また、自宅から徒歩10分という利便性で、送迎の負担が少ないところも選んだ理由である。 ・四つ目は、教員の体制がしっかりしていることである。園長先生の教育理念、ベテランの先生のしっかりとした指導やフォローしている様子、また実際に担任を持つ若手の先生型が真面目で、派手な印象ではないところに安心した。 ・息子は食物アレルギーでエピペン（※）を常備しているが預けるに当たって、何かあった場合のバックアップ体制がしっかりしていると感じた。アレルギー対応をしてくれる園はとてもありがたい。実際、入園拒否される園もあることを耳にしているので内心不安であった。 ・仮に公立保育所なら、必ず対応してくれるという安心感があるので、このような不安をもつ家庭のためにも、存在するべきかと思う。 ・息子は年中で、先日保育参観があり、興味を持ち集中して話を聞く姿を見て、まさに遊びの延長に学びがあるそのものだった。たくさんの先生に見守られ、楽しく過ごしている様子を見て、この幼稚園を選択して良かったと思うとともに、先生方に感謝している。 ・公立保育所のあり方に対する考えについて、近くに私立幼稚園があり、保育料についても無償化によって入園料や制服代などを支払えば、後は実費のみで済むという、私立幼稚園でありながら無償化により公立のような扱いになっていることは大変ありがたい。 ・公立保育所は、どの園でも大きな差がなく、同じ保育を受けられるという点は安心に繋がると思う。ただ、公立保育所と民間保育所で、内容や料金に差があると、幼稚園は保護者が選んで入園するが、保育所は第一希望に入園できないこともあるため、第一希望に入れなくてがっかりすることもある。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
地域型保育事業 所保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預けるに当たり、特色のある私立幼稚園と民間保育所と、普遍的で安心な公立保育所の双方あって選べる環境が、様々な子ども、親、環境、家庭のために必要だと思う。 ■施設区分：地域型保育事業所 ・小規模保育事業所に通わせている。選んだ理由は大きく二つある。 ・一つ目は、家からも駅から近いこと。二つ目は、信頼できる先生がいらっしゃる。その理由を我が家の兄弟構成と合わせてお話しする。 ・我が家は小学校3年生、幼稚園の年長、保育園の2歳児の3人兄弟である。全員3歳差で、初めて現在の保育園に通わせたのは、真ん中の子が0歳のときだった。一番上の子が幼稚園へ入園が決まったあとに私の仕事が決まったので、そこから預け先を探した。 ・家の近くには公立保育所や民間保育所、小規模保育事業所や幼稚園がいくつかあり、就学前まで保育所へ通わせるというこだわりも特になかった。家から一番近くて、駅から近い現在の園を選択した。就学前まで保育所に通わせるには、待機児童になると懸念したので規模を選んだという側面もある。 ・上の子と下の子で別々の預け先になったが、両方とも家から近かった。そこまで苦ではなかった。 ・プレ幼稚園に参加してから保育所に預ける日もあったが、園も駅も近かった。仕事にも影響なく通うことができた。 ・現在は、定員が12人なので、担任の先生はいるが、色々な先生が保育に携わってくれたので、初めてだったが安心して通わせることができた。 ・家での育児の悩みも、アドバイスをもらって役立つ場面もたくさんあった。 ・毎月あるお誕生会でも、ケーキを焼いて、おかわりもよくしているという話も聞いている。 ・園庭はないが、日によって違う公園へ行ったり、駅が近いので電車を見に行ったり、お散歩コースが日によって違うので、楽しんでるように感じる。 ・その後、同じく3歳差で末っ子が生まれ、それまで現在の小規模園に通っていた真ん中の子は幼稚園へ入園させた。今までお世話になっていた。そのまま末っ子も現在の園に入園した。小規模園だが、2人の子どもで6年間通園している。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長や給食の先生など、ほとんどの先生が変わらず同じだったので、あまり緊張せずに通うことができた。卒園した子の様子も聞いてくれたりしている。 ・今年で卒園なので、来年は幼稚園にするか、保育所に転園するかはまだ検討中である。 ・公立保育所のあり方への考えだが、個人的には公立私立ともにこだわりはない。公立保育所も民間保育所も保育料は同じなので、通わせる距離が少ない方が負担が少ないと思うし、きれいな園に通わせたいとは思っている。 ・ただ、資料では公立保育所の保育士のほうが勤続年数が長いということなので、今の保育所でも3月31日までお世話になっていた保育士が4月1日には辞めていなくなったということがあったので、公立保育所は数が少ないが、少し距離があってもベテランの保育士がいるという安心感は強いのではないかと思う。 <p>○質疑応答</p> <p>《公立保育所保護者に質問》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所について意見を述べられていた際、時代の流れに応じて良いということだったが、公立保育所が今後減少していく際に、公立保育所はいろいろな子がいることが良いと思っているが、例えば障害のある子だけが集まるような保育所になっていくようなイメージや心配があるか。もしそうなったらどういう感想をお持ちになるかお聞きしたい。
公立保育所保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所は、障害のある子が養育を受けながら、集団での学びも大事だと思っているので、今までの保育所の数が減少するだけで、中身が変わらないことを望んでいる。 ・障害のある子も、ほかのお子さんの力を借りながら成長していく部分も多くある。ただ、集団の中に入っていくと、他の子と同じようなことができない、そのできないんだということが、本人にとってつらいことではあるが、そのような経験も大切で、世の中に出たときに障害のある自分と同じような子だけではないので、今のような状況で、保育所の数だけを減らすということを望んでいる。
委員	<p>《公立保育所保護者に質問》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市から示された資料が、お金がない、建て替えにどうしてもお金が

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
公立保育所保護者	<p>かかり全部市が負担だということで減らすという方向を示されているが、仮にそういうお金のことがなかった場合はどうか。つまり、ある保育所の定員を減らして、20園は存続する、ゆったりとした保育ができて、困難を抱えたお子さんもこれまでどおり受け入れるという選択肢がもしあるとしたら、減らすということでよいか。選択肢の示し方について疑問に思っている。</p> <p>・手厚く保育をしていただけるのであれば、保育園の数がそのまま存続してもらえるのが一番の望みである。ただ、今回この資料を出されていて、それに沿った意見ということになれば、拠点となる保育所での保育でも、全部の公立保育所がなくならないのであれば、やむを得ないと思っている。</p>
委員	<p>《全ての保護者に質問》</p> <p>・例えば新型コロナウイルスが発生し、2週間園が休園となったと仮定したときに、協力できる、預けられる園を把握しているか。</p>
公立保育所保護者	<p>・私は仕事の自由が利くので、そういう場合は家庭で保育をしようと考えている。</p>
民間保育所保護者	<p>・私も家でみる、もしくは親戚のところでも見ていただくというように考えていて、他の園に預けることは考えていない。</p>
幼稚園保護者	<p>・私も家庭で保育を行おうと考えている。</p>
地域型保育事業所保護者	<p>・別の預け先は把握していない。市を跨いでしまうが、自分の親に頼もうと考えている。</p>
委員	<p>《全ての保護者に質問》</p> <p>・通園の方法と時間をお聞きしたい。</p>
公立保育所保護者	<p>・車で通っていて、時間は5分くらいである。</p>
民間保育所保護者	<p>・自転車か車を使っていて、時間は5分から10分くらい。時間は道路の混雑状況によって変わる。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
幼稚園保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・車で通っていて、時間は5分くらいである。
地域型保育事業 所保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩で2～3分である。 <p>－ 5分間の休憩後、11時10分から再開－</p>
事務局	<p>○事務局より資料2-1、2-2、2-3を説明。 【事務局説明概要】 資料2-1、2-2、2-3に基づき説明した。</p>
副会長	<p>○ワーキングチームより報告。 【ワーキングチーム説明概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議でも申し上げたが、川越市の公立保育所のあり方を定める上では、公立保育所をなくすということではなく、必要な数を維持していくことであり、公立保育所にどのような役割を持たせ、どのように維持していくかということがポイントであると考えている。 ・アンケートはいろいろな読み取り方ができるが、今後の公立保育所の役割として、公立においても民間においても、誰もが安心して預けることができる保育所を希望されるような回答が多かった、また、セーフティネットとしての役割を特に重要と考えていることを確認した。 ・フリーアンサーをみると、市が公立保育所を民営化するのかと考える方もいることが分かり、丁寧に時間をかけて誤解のないよう周知することが必要と考える。 ・アンケート調査について議論をする中で、公立保育所が地域の保育所としての役割を担う中では、在宅で子育てをしている家庭にも意見を聞いたほうがよいのではないかとの提案もあった。こうしたことから、アンケート調査の追加の実施につきまして、事務局へ提案をした。 ・第1回目の資料2-7「公立保育所の役割について」を検討し、具体的にどのようなイメージを持ったらよいのか、こういうイメージを描いているということをワーキングチームでイメージしたものを想定される取組として記載している。このほかに委員の皆様がイメージする取組があれば、本日、事務局から配られました会議シートに記入して、御提出いただくようお願いしたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の充実については、市では20年以上公立の研修に民間も呼んでもらっているが、対象を広げたり、テーマをもって実施することなどが考えられる。 ・配慮が必要な子どものことや、医療的ケア児支援法が定められたこともあり、保育分野、保健分野が連携していくことが意見として出された。 ・公立保育所のあり方について、長年の経験と実績のある公立保育所をどのような形で維持していくかという点で、すべての子育て家庭を支えるしくみづくりにつながるのではという考えがあった。 ・公立保育所の役割として、地域の子育て拠点としての役割が求められているのであれば、在宅で子育てをしている家庭の声を聴いていただき、よりニーズに沿った内容になるのではないかと考えた。 ・当団体で実施している事業の対象が、主に在宅で子育てをしている未就園児と保護者が多く、短い調査期間ではあるが、サービスを利用されている方と過去に子育てサロンなどに参加していただいた方へメールにより調査を実施したところである。
事務局	<p>○事務局より資料2-4を説明。</p> <p>【事務局説明概要】</p> <p>資料2-4に基づき説明した。</p>
会長	<p>○出席者による討論が行われた。内容は以下のとおり。</p> <p>【討論内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、今回とヒアリングを行い、保護者や職員、また、在宅で子育てを行う保護者へのアンケートも実施し、多くの資料を集めることができた。ここまでの報告を聴いての意見を全員に伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果をみると、市が提案している統廃合に賛成した人が7割くらいいるように感じられるが、逆に自由回答をみると、減らしてはいけないのではないかと思えなくもない。 ・お金がないからどうしようかということをお先に挙げすぎると、回答としてはしかたないとなるのかもしれないが、もう少し柔軟にいろいろなやり方を検討してもよいのではと感じている。定員数を減らして複合施設にしたり、100%市が出さなくてもよい建て方を検討するとか、補助金を使う方法など、検討してもよいのではないか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの質問の中で、自助、共助、公助の部分で、保護者の方に自助の部分を与えてしまった。公立保育所は公助の部分を持っていない、川越市は担えていないところの部分で、公立保育所がどう役割を担っていくのかという所を考えていかななくてはいけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方のヒアリングを聴いて、地域の保育園、幼稚園がいかに子育て家庭を支えているのかすごくよく分かった。0歳児から入ると0歳児から支えられていることになるが、3歳までの空白期間で孤立を防ぐしくみをつくるかを公立保育所に担っていただけたら、すごく子育てしやすい川越になるのではないかと強く感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 障害者の問題と子ども・子育ての問題はとても似ているところがある。みんながいう意見は、公立が面倒をみていないという話があるが、川越にいる限り、できることからとにかくやっていく、小さなことでも物事をかたづけていかないと、次に進めない。大きいことを言いたいのは分かるが、できる限りみんなで意見を出し合って進めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの回答率が低いと思う。10年前に子どもを公立保育所に預けていたが、紙で必ず提出するよういわれ集計していた。アンケートの実施方法について考え直していただきたい。 公立保育所の障害児の加配について、特化させることについて危険性を感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの設問について、定員数の見直しと統廃合を一緒に聞いている。同じ内容に見えるが、統廃合すると定員を増やして1つの園にまとめる考え方、定員数を減らして、現在のまま維持することはまったく別の意見になってくると思われるので、恣意的な感覚にもとられる。回答者はそこまで考えず、感覚的に回答していると思われるが、定員数を減らして維持したほうが良いという人がどのくらいいるのかということがあった。次回にでも説明があるとよい。 保護者の意見を聴いていて気付いたことは、家から近いことは何にも勝る理由であり、どんなによい園でも30分から1時間かかるところは選択肢として挙げない。5分、10分で預けられる、相談で

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>きる場所が身近にあるのが大事であるならば、災害時の問題も出たが、小規模、民間、公立が連携し合って、安全・安心な時に保育ができる体制を構築していかななくてはならないということを思い知らされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなところで地域という言葉が出てくるが、川越市の保育の地域性とはいったいどういったものなのか、公立保育に地域性や独自性が果たして必要なのかも含めて今後協議をさせていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは、みんながイメージできて回答しているのかがよく分からなかった。賛成が多かったのは、どちらかといえばという回答を選択せざるを得なかったので賛成したという感じがあって、どのように聞いたらもう少し生の声が聴けたのかと考えながら報告を伺っていた。 ・保育所は保護者の希望だけではなく、虐待の恐れがある家庭について介入的に利用するという役割も求められていると思うが、そういった役割をどこでどう果たすのか、そこをきちんと押さえておかないと、遠い所になったら親は連れていかないだとか、家庭が見えない保育がありうるのか、前回の議論の時に、自分の中で抜けていたので、今後そのあたりを含めて検討いただけるとよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回に引き続き今回も現場の声を聴くことの大切さを感じた。今後も川越市として現場の声を聴いていただきたい。主任児童部会として、保育は子どもの未来にとって重要であると思うし、限りある予算の中で何に一番力と予算を費やしていけば最も効率がよいのか、アンケートの中で最善の策を挙げていくことが大事だと思った。 ・公立保育所をこれから少なくしていくということではなく、公立保育所のあり方を考えるにあたって、今後の川越の子育て事業を強化し、よりよくしていくということをもっと前面に出していきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングで、公立は廃園しても他部署への異動があるということが象徴的だった。民間では、廃園したら職が無くなってしまう。ここでも公と私の違いがあると感じた。アンケート結果や保護者のヒアリングでも5分～10分で通えるところということがテーマと

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>なっていると感じた。ヒアリングでも公立保育所、民間保育所、小規模保育施設関係なくという話もされていたので、川越市も公立、私立、保育園、幼稚園、小規模、認定こども園関係なく、それぞれの施設がそれぞれの保育の役割を担うと考えていくと、徒歩や自転車で通える範囲で適切に保てるとよいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は文部科学省の所管で、文部科学省のトップには教員免許がなくてもなれるので、現場に合っていない企画が立ち上がる。現場を知らない人が上に立つと困るという話で、例えば、民間委託をして、市内に公立が無くなってしまうと、行政が保育園の大変さが分からなくなってしまいますので、そういった意味では公立の保育園は絶対的に必要である。現場の声があって、公立・私立それぞれの特色があって、選択できる環境があるのがよい。 ・未就園児にとって、保育園と幼稚園がいかに大事な存在ということを感じた。 ・市の財政状態は非常にひっばくしていると思う。公立保育所のハコの問題ももちろんあるが、重要なのは働かれている人材だと思う。公立のスキルを若い保育士に伝えていけるか、川越市全体の保育施設の底上げができるようになっていくような話し合いがここでできるとよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所を選ぶときに、距離を重視されていると、ヒアリングの中でもあった。それに対して統廃合が進んだときに一番心配されるのがその点だったということで、検討していくうえで一番重要になってくる。ただし、今日聞いた中で、どの程度まで許容できるかは明確ではなかった。質を高めようとするショッピングモール的なもので、コンビニのように近場であればよいというものかもしれないが、質の面でも距離に対してどの程度許容できるか、課題があった場合にどのようなサポートができるかを今後の中で検討していければよいのかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、衝撃を受けたのが、待機児童についてである。所沢市と川越市で県内2、3位を争っていた待機児童の状況が、ほぼゼロに近くなったということで転換期を迎えていると思う。 ・公立保育所のあり方は、市としての保育の本気度が試されている感じがする。公立保育所のあり方こそが川越市の保育のあり方と捉え

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>ることができる。減少や縮小については、私も良く分からないが、いずれにしても新しい公立保育所のあり方は、他の市町村に誇れるような役割を創設していただき、川越市はこれだけ保育にやる気があるというところで、みんなで検討していただけたらと思う。</p> <p>◎今後の進め方について、会長から提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論の取り扱いについてお諮りしたい。議論していただいた内容をどのように市に伝えるかについて、附属機関である審議会として行政に行えるのは、一般的に「答申」、「勧告」、「意見具申」、「検討報告」とされている。 ・「答申」は、市長から諮問があり、お答えするもの。 ・「勧告」は、諮問がなくても審議会として行政に対して取組を求めるもので、具体的事案、決定されたものに対して行うことが通例である。 ・「意見具申」は、審議会としての意見を述べるもの。具体的事案、決定されたものに対して行うが、勧告のように行政に一定の措置を求めるものではないが、通例では行政は回答義務がある。 ・「検討報告」は、審議会が自主的に調査検討した内容を行政に報告するもので、答申、勧告、意見具申のように行政への強制力は薄い反面、具体的な事案や政策でなくても自由に議論し、行政に提案できる。 ・今回の審議会での議論は、一番最初に、審議会の自主的判断で調査検討することを確認した。関係者へのヒアリング、ワーキングチームの設置、関係者へのアンケートなど、すべてこの審議会の名前で実施してきた。 ・今回市から提示された「公立保育所のあり方」は、まだ市として政策決定されたものではなく、また個別具体的な計画が出されたわけではない。多くの自治体では、公立保育所の再編が政策決定され、具体的な計画が確定してから審議会に報告され、了解を求めるといったやり方が多い中で、川越市は、政策決定前に審議会に意見を聴いた。これは、川越市が審議会を「事後承諾」の場としてとらえるのではなく、専門家はじめ広範な市民の声に耳を傾け、それを踏まえた市政を推進しようとするものとして捉えており、審議会のあり方に大きな意義を与えたものであると評価できる。 ・今回の議論は、市長などからの諮問案件ではないので、「答申」とはならないと解釈できる。また公立保育所再編の政策決定も具体的

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>な計画も示されていないという点では、勧告や意見具申になじむものでもない。ただし、審議会としての意見は市にしっかり伝えたいと思うので、市に対して「検討報告」として提案したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会の通例では、「答申」、「勧告」、「意見具申」は審議会の議決が必要で、一般的には「全員一致」が求められる。答申等は一定の強制力があることから、委員が議決と齟齬をきたす行動をとることは道義的におかしいこととなる。市としての決定がされていない状況で、委員の今後の行動に枠をはめることは避けたいと考えるため、「検討報告」とさせていただきたい。 ・ 次回8月に取りまとめを行い、市の方に提出し、市の検討結果に反映して欲しいと考えるが、この点についてよろしいか。 <p>(一同了解)</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この間4回議論し多くの意見が出されたので、検討報告書では、できるだけ多くの意見を盛り込んでいきたい。今回は合意事項を確認して、こういった意見があったというように盛り込んでいきたい。 ・ この間の議論や発言をまとめると次の点では確認できると思う。 ・ 第一は、市内の保育ニーズが大きく変わり、その変化に後追いではなく、計画的に対応することである。これが今回の見直しの必要性の根幹にある。少子化による年少人口の減少などから保育ニーズの大幅な減少が見込まれ、これに合わせた市内の保育体制をつくっていくことである。 ・ 第二は、保育の質の向上である。保育所入所待機者の解消が現実的に見通せる状況で、いよいよ保育についての量から質へと施策転換が求められている。公立保育所の量を削減するという視点ではなく、川越の保育の質をどう高めていくかというところから考えていく。また公立保育所については老朽化などで環境改善が求められていることもあり、こうした視点からあり方を考えていくことである。 ・ 次に、審議会の議論や発言からまとめられる点として、次の4点がある。 ・ 第一は、公的保育所の役割についてである。アンケート等では今回の議論が公立保育所の廃止・民営化へつながるとの懸念が少なからずあった。議論で明らかになったことは、公立保育所の果たすべき役割があるだろうと期待もあった。特に障害児保育はじめ質の充実

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>については具体的意見があった。民間保育所への支援についても声があった。まとめの第一は、保育の公的責任の放棄・後退ではなく、公的保育所に求められる役割や機能に応えられるあり方を考えてほしいというところでまとめたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二は、公立保育所と民間保育所との地域での連携と質の向上である。現在、公立保育所と民間保育所はほぼ同数で、アンケートをみると、地域での利便性や勤務条件で保育所を決めている保護者は少なくなかった。そうであれば、地域の中ですべての子どもがしっかりした保育を受けられるようにすることが大事であるとする。地域の中での保育のスタンダードの確保を図る必要がある。そういった面での公立保育所の役割がある。民間保育所については、その理念や保育内容で選考する保護者もたくさんいることから、それぞれの民間保育所がその独自性を発揮できるような支援を考えて欲しい。また、今後災害や感染症など不測の事態が起こった時に保育を途切れさせないセーフティネットの役割づくりも求められる。また、地域での役割を担う公立保育所のあり方を求めているという意見が多かったと考える。 ・第三は、利用児童や保護者の負担のないよう、無理なくゆとりを持った取組を考えてほしい。途中で保育所を変えざるを得ないということを危惧する声が多くあった。取り組むには、十分な余裕を持って進めることとし、利用者や住民の声に耳を傾けて、できるだけ無理のないようにしてほしい。また、保育ニーズは変化することがある。働く女性が増えたり、リモートワークによっても変わってくる。「再編計画ありき」で進めるのではなく、時々々の状況や市民の声、保育ニーズに合わせた対応や柔軟に推進することが求められる。 ・第四は、保育の質の担保である。多くの意見として、公立保育所のメリットとして保育所の勤務環境が良く、経験豊かな保育士が多いことがあがった。保育の質は保育士が左右すると言っても過言ではない。公立保育所のメリットを生かしながら、民間を含めて地域全体の保育の質の向上を進めていくということが期待されているという点では共通した意見であるとする。 ・今後の進め方について、これまでヒアリング・アンケートを実施してきた。ここで議論をまとめて次回には一つの形にして提出し、市の今後の検討に反映して欲しいと考えている。既にたたき案として3つ出されているが、それに対して反対、足りない点、こうすべきといった点について意見として会議シートで提出していただき、ワ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>ーキングチームで検討し、次回にはまとめて市に示していきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このように進めることとしてよろしいか。 <p>(一同了解)</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・以後そのように進めることとする。
事務局	<p>5 その他</p> <p>[事務局からのお知らせ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見・質問等がある場合は、本日配布している「会議シート」を、7月26日(月)までに事務局に提出。 ・次回の専門分科会(子ども・子育て会議)は、8月18日(水)市役所第5委員会室で実施する。次回から、ペットボトルごみ削減による環境配慮に鑑み、マイボトルの持参をお願いしたい。 ・E-mailの登録を行うので事務局に報告をお願いする。 <p>6 閉会</p>